

# 鉄道ピクトリアル

2008年1月号 Vol.58 No.1 通巻No.798

## <特集> 貨物輸送

■表紙 「スーパーレールカーゴ」M250系……………編集部  
大井機関区 2007-10-30  
ペンタックス67 SMCペンタックス75mm 絞り f 5.6~8 タイム1/125 RVP F

## ■グラフ

### 貨物列車今昔 (1~8ページ)

赤座安彦・太田正行・尾崎 渉・小野雄一郎・加藤和毅  
……………河原慶明・清藤清明・白土洋次・鈴江 隆・関根敏男  
浜村正弘・真鍋裕司・三ッ谷政久・森 友紀・渡邊裕太郎

### 1950年代 都内で身近に見られた貨物列車と貨車のある風景

……………写真：伊藤昭，解説：伊藤威信… 41  
操車場のある風景……………構成：編集部… 44  
シキ611B1に見る変圧器積み込み作業の実際……………高橋 政士… 48  
貨物鉄道博物館の収蔵車両……………構成：吉岡心平… 52  
私鉄・専用線のDD13 Part2……………写真：服部朗宏ほか… 54

### Pictorial Color Gallery 最後の青ガエル……………大野 義久… 97

〔小田急電鉄60000形／鉄道総研架線・バッテリーハイブリッドLRV〔Hi-tram〕／JR北海道ハイブリッド車両／横浜〕100~106  
市10000形量産車／10月14日鉄道博物館開館ほか  
トピック・フォト (各地・関東・中部・関西)……………107  
JR東日本E655系の車内を見る……………構成：編集部…114  
ヨルダンの鉄道……………河野 哲也…118  
鉄道の日各地でイベント開催……………120

## ■本 文

今月の話題：貨物輸送……………編集部… 9  
JR貨物の20年……………舟橋 郁央… 10  
JR貨物機関車の動向……………田代 直之… 20  
JR貨物貨車の動向……………藤川 憲一… 26  
JR貨物検修基地・運転基地の概要……………藤川憲一・吉岡智文… 28  
JR貨物コンテナ拠点駅の概略……………長谷川 慎… 31  
大物車の魅力—日本AEパワーシステムズ所有車両を見る—  
……………高橋 政士… 34  
貨物鉄道博物館 概観……………吉岡 心平… 38  
貨物鉄道輸送をめぐる話題……………岩沙 克次… 58  
昭和30年代の貨物列車編成記録……………田中 壽… 66  
鉄道による白桃輸送1952(昭和27)年の思い出……………瀬古 龍雄… 72

### 鉄道の話題……………編集部… 57

JR東日本E655系  
……………東日本旅客鉄道(株)運輸車両部(車両開発)特別車両グループ… 78  
メッカ巡礼鉄道をルーツに持つヨルダンの鉄道……………河野 哲也… 86

民主党副代表 衆議院議員 前原誠司氏が語る“青春、鉄道、政治”  
進行・構成：宇都宮浄人 (121~128ページ)

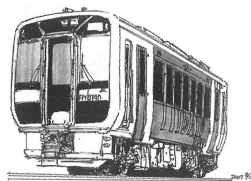
書評(530)『貨物鉄道百三十年史』……………和久田康雄…129  
小さな凸の大きな功績 DD13形・DD15形補遺 DD13寒地形について

……………岩成 政和…130  
私鉄・専用線のDD13 Part 2……………服部 朗宏…134  
私の鉄道人生75年史 第13回 新造車両輸送の仕事(その2)……………里 田 啓…140  
2007年10月14日 いよいよ開館! 鉄道博物館……………白川 淳…144  
第2回「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」in京都開催  
……………宇都宮浄人…147

鉄道ピクトリアル2007年主要総目次……………148  
10月のメモ帳……………150  
読者短信・情報ファイル……………151  
後部車から……………155

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru



カット：山本茂樹

## 今月の話題

### 貨物輸送

私たちが日常の通勤・通学などで気軽に接することができる旅客鉄道に対し、物流を担う貨物鉄道は日ごろ馴染みが深いとは言えない。鉄道興味の視点からも機関車や貨車の話題、関連情報は、折々に目にすることができるが、ターミナル駅などの施設、輸送の実態など事業の本質に関わる事柄は、体験の機会が少ないためあって、どちらかと言えば旅客鉄道に比べて関心の広がりか鈍いように感じられる。しかし、貨物輸送は鉄道創業期以来、旅客輸送とともに鉄道が担う輸送の両輪であり、歴史的に見ても、また今日の状況からしても鉄道分野の中で高い意義を有している。かつては国鉄が全国ネットで展開していた貨物輸送は、国鉄改革により日本貨物鉄道が継承し、今日に至っている。全国的に見て民鉄による貨物輸送の数はわずかであり、現在は鉄道貨物輸送=JR貨物と言って差し支えあるまい。

1987(昭和62)年の発足から20年を経過したJR貨物は、全般的な貨物のシステムで基本的な部分では大きな変化が乏しかった国鉄時代に対して、その変革ぶりははげましましものがある。輸送システム、車両技術、設備など、さまざまな面で改革に向けた積極的な取り組みを進めてきた表れであり、その姿勢は高く評価できる。発足以来、平成初期の不況期、産業構造の変化、相次ぐ自然災害といった数々の障害を克服し、事業基盤の整備に努めた結果、現在では東海道・山陽をはじめとした幹線を行き交う長編成の高速貨物列車、入換のない機能的なターミナルなど、新しい貨物輸送のイメージが構築された感が強い。環境問題が大きくクローズアップされる今日、JR貨物の躍進をめぐる可能性は高く、更なる奮起を期待したいものである。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI  
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan